

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月24日(月)

▼森庄の朝風呂、朝食よし！ 森田のおばちゃんが挨拶に来て下さる。八十五歳お元気。十一時、島原「角屋」。当主中川氏が雪の舞う中、門前で迎えてくださる。蕪村忌句会におよそ十五人の俳人が集まる。二時間程中川氏が角屋を案内して下さる。冷泉家の当主為人氏も参加して句会。あと百人一首を引き、その一首から浮かぶ思いを即吟する探題句会。十八時、全員で祇園「島居本」に席を移して宴会。女優田畑智子の実家。あと茨木和生氏に誘っていただき「米」。茨木氏と奈良行最終特急に乗り橿原神宮前、ロイヤルホテル泊。(俳句会の状況は「俳句」五月号に掲載予定)▼五時起床。温泉。八時、「すす逃げ吟行会」近鉄御所集合二十三人。風の森時から葛城古道へ入る。金剛山は雪。里も昨日の雪が残る。一言主神社を経て六地藏。結局、御所駅まで二十キロメートル歩いたか。十六時、ホテルフジタに荷を置き、「蔵」二階にて五句出し句会。途中、朝妻力さん、茨木和生氏が託してくれた超ド級の鮎鮎持ってきてくださる。あと三句出し二回、一句出し一回で十時半過ぎおひらき。風邪薬と併用して日本酒相当飲む。いつもながら料理佳品。水頭贈、くえの刺身なども珍しむ。▼風邪だんだん悪化。風呂入らず。七時半集合し、J.Rにて二回乗り継いで伊賀上野へ。冷たい風の盆地。芭蕉生家、城跡、鍵屋の辻。田楽の「わか屋」にて昼食。十三時過ぎ、五句を出して私だけ先に帰ることにする(仲間は糞虫庵で句会)。東京に戻りともかく寝る。(熱の身の臍嚢むおもひ年の暮)▼一日休養。夕方、吉祥寺で買物。▼渋谷発七時過ぎの成田エクスプレス。デルタ航空にてグア

25日(火)

26日(水)

27日(木)
28日(金)

1月1日(火)

ム島へ。(標巻のままにグアムを通関す)二十一日から来ている長女一家へ合流す。昨年と同じコンドミニアム「アルパインビーチ」。早速酒盛り。そうこうしているうちにイガグリ一家(桃子の大学同期)、小川さん一家(グアムに住むツアーコンダクター)来て全部で大人七人子供七人のタコヤキパーティー。最後はフイリビーナの小川夫人ローナの主導で「ズンバ」というダンスパーティーとなる。▼十一時過、レオパレスのプール。プールサイドで読書、いやほとんどどうした寝。夕食は町に出て「バンタイ」のタイ料理。あとヨーロッパ。スーパーマーケットに買物。▼朝食時、桃子と白ワイン。またまたうたた寝。昼、焼酎を飲んでまたまた昼寝。さすがに家族も驚いていたらく。夜ステキ。こちらは日本時間二十三時が新年。湾の向うに花火が上がる。▼鯨の昆布巻、からすみ大根、数の子、雑煮、黒豆などで新年の食事。酒は澤乃井大吟醸で、また寝てしまふ。午後、ようやくエンジンがかかり、二月号の残りの原稿、新年俳句大会の選句などに取り組む。体調戻りはじめる。今日は一回も外に出ず。深夜便にて宮澤戻る。▼宮澤と一日遅れの新年の乾杯と食事のあと、またまた寝てしまふ。午後、ブルサイドでうとうと。十九時頃から皆は映画のビデオを観ているが寝てしまふ。▼結局十二時間程寝たか。朝食鯨そば。ゴボウムビーチで半日遊ぶ。美しい海。ただし今回風強し。あと小川家に行きバーベキューパーティー。清水家も来る。ハンモックから見ると夜空が美しい。時折、B52のカーゴの機体も。帰宅してすぐ就

31日(月)

30日(日)

29日(土)

3日(木)

2日(水)

4日(金)

6日(日)

5日(土)

7日(月)

8日(火)
9日(水)

10日(木)

11日(金)

12日(土)

寝。咳まだ治まらず。二歳の孫がiPadを操作してゲームなどを楽しんでいるのに驚く。▼午前中からイルカウォッチングの船に乗る。足長イルカ、去年より沢山、何回も見ると。毎回出てくるのだから地域に貢献する働き者。風なく快晴。あとシュノーケリングも。戻って鰯酒。白菜と豚肉のボン酢、刺身など。昼寝。十八時、オンワードホテルのイタリア料理店。ビザ、生ウニパスタなどでワイン。あとKマートに買物。▼十時二十分発デルタ便にて家族より一足先に帰国。寒し！ 十五時頃帰宅して留守中の諸々整理。▼年賀状返信など。酒井多加子さんより恒例の手作り干柿沢山到来。午後店に食材運ぶ。次女に預けたバツ戻る。カットして小綺麗。▼今日より店スタート。半月旅の空であった。店、「銀漢女子句会」とて女性七人。席題句会二回。発行所「かさぎ勉強会」山口青郎と。あと十二名店。京都から送ってもらった九条葱と油揚げの鍋好評。若井新一さんより自作の新米到来。▼店「火の会」十人。「週刊金曜日」の伊達さん、編集長と。▼発行所は事業部新年会打合せ。奥「きさらぎ句会」八人。「読む会」(一平、真砂年、うさぎ、麒麟さん)、「公認会計士藤井さん(購読会員)が来て馬鹿話。村上敏和さん来たのでむりやり購読会費取る。▼平成俳壇本日締切。出す。そうそう十一月末に始めたからすみ作り。ついに干し上り、初めてにしては上々の仕上り。「銀女句会」「火の会」に出して好評。発行所「十六夜句会」、あと十人。ひまわり館にて「宙句会」、あと九人。▼「大倉句会」あと十人。池田のりをさん、半年前から俳句を始めた学友福井さんと。▼十時、運営委員会。昼、禪次氏と小学館ビル地下「七條」

13日(日)

14日(月)

15日(火)

16日(水)

18日(金)

にて海老フライ。この店、春に移転してしまふというので：。十三時より「本部句会」五十一人。あと「庄屋」。▼甥の頭輔君葬儀。(凍て解けずチエロ八台で送るとも)帰路、桃子家に寄る。▼暗い雨が雪に。「俳句」三月号へ檜山哲彦句集「天響」の一句鑑賞文。全体。雪降り続き交通も危うし。次女杏の義祖母の通夜中止となる。句集札状。新年会用短冊染筆など。▼店、ジャパトラ会六人。俳人協会新年祝賀会あとの池内けい吾、袖口満さん。▼雪なかなか解けず。「俳句」三月号の井上井月特集の「覚えておきたい！ 井月の名句三〇」を担当。三十句の選出と各句の解説を執筆。店、高校同期「三水会」六人。発行所は「はてな」句会、あと六人。毎日新聞鈴木琢磨さん。琢磨さんが毎日新聞に連載した「今夜も赤ちやうちん」(銀漢亭が取り上げられている)が今回ちくま文庫に入り書店に並んでいる。「りのい」山崎祐子さん。▼「野村句会」終つて六名。野村OB会報に山田康教さんが「銀漢野村句会」の紹介文を書いたところ和歌山の隈取さんが入会。挨拶がでたら上京してくださる。嬉しい縁。角川新年会、広渡敬雄さん角川俳句賞受賞祝賀会あとの方々が寄つてくれる。朝妻力さんが「雨月」の重鎮今井妙子さんと。今井さんは私の句を好きだと云つて下さり、「ポーナスを自分に出してみて淋し」などという句を贈んじてくれる。權、肖子、真砂年、相子、小石、陶句郎、しなだ、卓田、山崎祐子、土肥、中田尚子、うさぎ、杉原、朝比古、元氣、慶太、島居真里子、生駒……若手の名前は覚えられない。結局電車がなくなくても皆帰らず……。一時半頃まではばらばら。岩波社友の今井さん。何年前か前私が諏訪の風樹文庫六十周年の記念講演をした折のポスターを持ってきた。銀漢「誌」十二月号買っていつて下さる。